

『堤防決壊を想定し、実践的トレーニングを実施！』

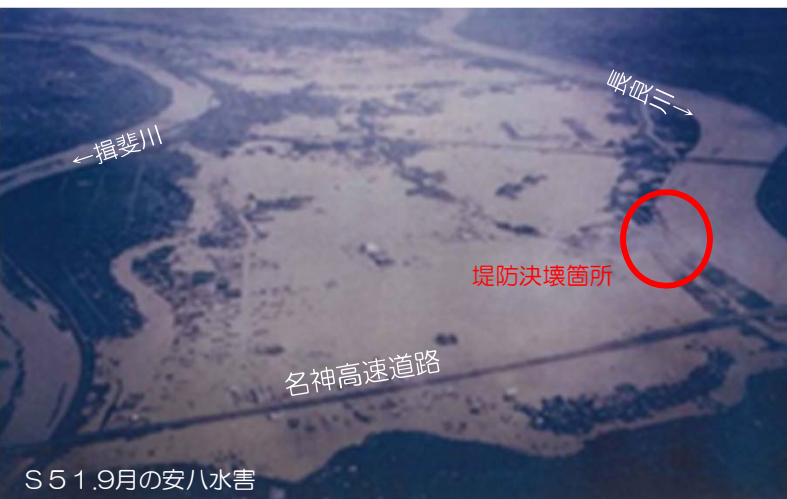
木曾川上流河川事務所 初動対応を確認

- 洪水により堤防が決壊した時を想定した、緊急的な初動対応に関する図上訓練が7月30日（水）、国土交通省木曾川上流河川事務所（岐阜市忠節町）で行いました。近年、堤防決壊の経験がない職員が多い中、緊張感のあるより実践的な訓練が必要として、平成19年度から毎年実施しているもので、今回で8回目となり、職員約50名が参加しました。

当日の訓練は、昭和51年9月12日、長良川で発生した安八水害時に、災害対応に従事したOB職員・大西典生さん（当時、中部地方建設局河川管理課長）による講話を聞いた後、長良川左岸42.6K（瑞穂市下奈良地先）の堤防約100mが決壊したという想定のもと、復旧工事に向けた関係者への連絡や資機材の調達など、具体的な段取りについて確認を行いました。



当時の緊迫した状況を話す大西典生さん（写真右端）



S5 1.9月の安八水害

災害が起きたときは、初めの対応が一番重要になります。その時、自分は何をすべきなのか、瞬時の判断が求められます。今回は、それを再確認できる非常に重要な訓練となりました。



技術係長 早瀬正格

もちろん、災害は起きない方が良くは決まっています。しかし、可能性はゼロではありません。

この訓練の成果を十分に活かし、地域の皆さんの安全・安心を守れるよう、意識を高く持って、職務に邁進したいと思います。